

令和 6 年度 第 3 回 中城御殿跡地整備検討委員会

令和 6 年度 なかぐしく うどぅん 中城御殿跡地整備検討委員会 概要

1. 令和 6 年度の中城御殿跡地整備検討委員会・部会について
2. 令和 6 年度検討スケジュール
3. 令和 6 年度第 2 回検討委員会の振り返り
4. 令和 6 年度中城御殿エリア検討部会の報告
5. 令和 6 年度龍潭周辺部会の報告

(参考) 整備スケジュール

1.令和 6 年度の中城御殿跡地整備検討委員会・部会について

- 令和 6 年度は主に、第一期工事（上之御殿エリア）の工事、第二期工事（御内原・表御殿西側エリア）の設計・工事、展示収蔵環境を含む施設の管理体制などを検討する。また関連する龍潭周辺整備の状況も引き続き確認する。
- 中城御殿においては「中城御殿エリア検討部会」、また、龍潭周辺整備においては「龍潭周辺整備検討部会」を設置する。
- 部会における検討結果は、検討委員会で諮る。

検討委員会（3回予定）

【委員】	歴史	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長
	歴史	高良 倉吉	琉球大学 名誉教授
	都市計画	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
	考古、漆芸史	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	景観、建築	山城 一美	(公社)沖縄県建築士会副会長
	保存科学	早川 泰弘	東京文化財研究所 特任研究員
	地域、建築	伊良波 朝義	NPO法人首里まちづくり研究会理事長 (公社)日本建築家協会沖縄支部 支部長
	工芸（染織）	與那嶺一子	琉球大学 非常勤講師

【協力委員】	沖縄県	中園 幸樹	開発建設部 公園・まちづくり調整官 首里城復元整備推進室長
	沖縄県	仲 厚	土木建築部 参事
		仲嶺 智	土木建築部 南部土木事務所長
		喜納 久	土木建築部 都市公園課長
		瑞慶覧 勝利	教育庁 文化財課長
	那覇市	親富祖 ちか	文化観光スポーツ部 文化振興課 県立博物館・美術館 副館長
		佐久川 泰尚	都市みらい部 参事兼都市計画課長
	指定管理者	上原 清実	市民文化部 文化財課長
		福地 敬	(一財)沖縄美ら島財団 事務局長

中城御殿エリア検討部会

- ・ 中城御殿エリアのうち、設計等に関する詳細・具体的な内容を議論する。

龍潭周辺整備検討部会

- ・ 龍潭周辺整備のうち、主に世持橋高欄の設計、松崎馬場伐採・植栽工事、龍潭西岸バリアフリー園路設計に関する内容を議論する。

部会構成員は、検討テーマにあわせた委員、専門家をアドバイザーとして招聘。関係部局を含めて構成。

2.令和 6 年度検討スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会	第1回				第2回					第3回
部会						龍潭①	龍潭②	中城①	龍潭③	
関係者調整	調整									調整
検討内容	第一期工事（上之御殿エリア）、第二期工事（御内原・表御殿西側エリア 工事）、脇門石牆の整備									
	御内原・表御殿西側エリア 展示計画、管理運営体制の検討、外構整備の検討									
	【龍潭】世持橋高欄設計、松崎馬場整備、龍潭バリアフリー園路									

月	会議	議論テーマ
R 6 . 6 月 6 日	第1回検討委員会	- 令和 5 年度の内容確認 - 管理体制の検討 - 御内原・表御殿西側エリア実施設計報告 - 龍潭周辺の整備についての確認
R 6 . 10 月 29 日	第 2 回検討委員会	- 令和 6 年度の検討内容、部会設置の確認 - 上之御殿エリア整備の検討、脇門石牆の整備の検討 - 管理運営体制の検討
R 6 . 11 月 ~ R 7 . 2 月	中城御殿エリア検討部会 (1 / 10) 龍潭周辺検討部会 (11 / 28 , 12 / 24 , 2 / 12)	- 上之御殿整備の検討、脇門石牆の整備の検討 - 展示計画の検討、外構整備の検討 - 世持橋高欄設計の検討、松崎馬場整備の検討、龍潭バリアフリー園路検討
R 7 . 3 月 6 日	第 3 回検討委員会	成果の確認、今後の課題等について確認

3.令和6年度第2回検討委員会の振り返り

- 令和6年度第2回検討委員会（2024年10月29日開催）における主な意見は下記のとおりである。

<上之御殿エリアの整備について>

⇒「資料2：上之御殿エリアの整備について」にて現状報告

- ・ 石積みについて、「扇形（多角形・丸み）を部分的に配置する」とあるが、部分的とは具体的に何か。（委員）
→サンプルを作成した段階で確認いただきたい。扇形は、全てではないと考えており、配置の塩梅は委員のみなさまの意見を聞きながら進めたい。（事務局）
- ・ 上之御殿の北側石垣について、発掘調査により一連の石垣があったことがわかっている。そこで、階段整備の際の石積みをどうするか。（委員）
→北側の新たに設置する階段は、できるだけ遺構の少ない場所に設計変更する考えである。北側道路に面している部分については、遺構の崩落の危険性があるため、文化財課と調整してネットで保護して崩落を防ぐ考えである。（事務局）
- ・ 上之御殿の東側の石積み遺構は保存状態がよいが、表面に石積みを整備して保護する計画となっている。この部分については、計画通り進めるのか。（委員）
→公園整備と併せて考え方を整理し、改めて委員会や部会で整備の方向性について諮る考えである。（事務局）
- ・ 西側擁壁について、素掘り側溝とある。柵が見えるかどうか、意匠的に重要なため検討いただきたい。（委員）
→西側に向けた転落防止柵を設置する必要があるが、どのような柵になるのか、今後委員会で示していきたい。（事務局）

<脇門石牆の整備について>

⇒「資料3：脇門石牆の整備について」にて現状報告

- ・ 管路保護工について、脇門の下に通した方が、設備の更新等のリスクが少ないのではないか。（委員）
- ・ 西側石牆について、以前に復元した部分の石積みが往時の積み方とは異なる。今回整備の折には、往時の形にできるだけ近づけてほしい。

3.令和6年度第2回検討委員会の振り返り

- 令和6年度第2回検討委員会（2024年10月29日開催）における主な意見は下記のとおりである。

<中城御殿の役割・機能について>

⇒「資料4-1：中城御殿の展示コンセプト」にて、中城御殿の役割・機能の再確認

- ・ 中城御殿の目的として、琉球の歴史・文化の体験学習、首里のまちの拠点施設とあるがどのように運用していくのか。施設の管理は専門的な内容だが、運営については生きた施設にするために地域との関りが非常に重要である。（委員）
- ・ 首里というまちのパワーや潜在力を引き出して、中城御殿に結集させて地域に返していくような、より首里というまちに向き合う体制が必要になってくると思う。中城御殿ができて、首里がより濃密になったと感じるような拠点になるよう期待する。（委員）
- ・ 尚家資料は大部分が古文書である。その歴史資料を活かすために、レファレンス機能として閲覧スペースが必要である。また、体制のなかに膨大な尚家文書を扱えるマンパワーが必要である。将来的には活字媒体やデータベースとして紹介する事業も想定される。文書情報の利活用に対応できる体制を整えてほしい。（委員）
→那覇市歴史博物館では、これまでもレファレンス機能として資料の閲覧等に対応してきた。新たに中城御殿においても、対応可能なスペースを考えており、これまで以上にニーズが高まることも想定されるため対応する。また、那覇市歴史博物館ではデジタルミュージアムにも取り組んでおり、そこで広く公開して活用できるように考えている。（協力委員）
- ・ 首里の発展に際し、ソフト面の運営としていかに子供たちに関わっていくか等、いろいろな方が気軽に使えるように考えてほしい。（委員）
- ・ 尚家という王家が持っていた資料が首里に戻ってくる場として役割が大きい。それを意識した展開をしてほしい。（委員）
- ・ 今後の運用を考えると人員体制も課題である。さらに、どんなに素晴らしい資料や展示があっても、情報発信がうまくいかなければ普及していかないため情報発信のあり方もしっかりと考えてほしい。（委員）

3.令和6年度第2回検討委員会の振り返り

- 令和6年度第2回検討委員会（2024年10月29日開催）における主な意見は下記のとおりである。

<首里城との連携について>

⇒「資料4-1：中城御殿の展示コンセプト」にて、首里城との連携について再確認

- 首里城では、南殿で収蔵庫、また黄金御殿にもそのような機能がある。沖縄美ら島財団の資料もそこでの重要な展示物になる。中城御殿に寄託する資料とどのように分けるか議論はしているか。（委員）
→沖縄美ら島財団所有の美術工芸品の取り扱いについては、覚書において、中城御殿に置くものは寄託となるが、南殿が中城御殿のあとに整備されるため、その際に改めて協議する旨を記載している。（事務局）
- 首里城正殿および公園の管理運営体制と中城御殿の連携はどうなるのか。火災への対策等も含めて、首里城と中城御殿は別々ではなく組織的に一体として管理運営体制を考える必要があるのではないか。（委員）
- お客さんから見たら中城御殿も首里城も一連のものである。単に資料の貸し借りではなく、それ以上の連携が必要だと思う。また古い資料は数に限りがあり、今後50年100年と残していくためには展示期間にも留意し、復元も検討してほしい。（委員）

4.令和6年度中城御殿エリア検討部会の報告

- 令和6年度第1回中城御殿エリア検討部会（2025年1月10日開催）における主な意見は下記のとおりである。

<上之御殿エリアの整備について>

- ・ 北側の階段部分の門扉の高さについて、1.2mとあるが、国宝を収蔵する施設になるため、敷地内に簡単には入れないよう防犯性を高めた方がいいのではないか。（委員）
→門扉を高くしたとしても、他の場所から入れるため、効果が低いと思われる。中城御殿については、防犯上の措置として、監視カメラや人感センサー等を整備するため、それらを利用した防犯対策を実施する考えである。（事務局）

<脇門石牆の整備について>

- ・ 崩壊や沈みのある部分の積み直しについては、ぜひ文化財復元に相当するような整備を行ってほしい。解体前の状況、どのような方法で復元をしたかの記録等、公開できる報告書を作る作業をしてほしい。（委員）
→今回の工事にあたって、写真を撮り、現場の確認を県文化財課とともにやっている。今後の史跡指定に向けた資料となるよう進めていきたい。（事務局）

<展示計画について>

- ・ 那覇市には県立博物館があり、中城御殿のあり方として首里城城郭内だけを意識すればよいという話ではない。県内にある展示施設との差別化、特徴を出さなければ人は来てくれないだろう。（委員）
- ・ 展示の配置や展示内容の流れ等を考慮し、人がどこかで滞留しないような工夫が必要である。（委員）
- ・ 展示コンセプトのなかに適正入館者数をあらかじめ定めた方がよいと思う。展示に応じて内容がしっかり内容が理解できる適正な数値があるはずである。（委員）
→展示設計を進めていく中で検討していく。（事務局）
- ・ 展示室が小さくないため、詰め込み過ぎてないか。（委員）
→今回示した資料は、大きな企画展のときにしか出せない数量かと思っている。別にガイダンス部分があり、そこで首里に関する説明が必要だと思っている。中城御殿全体でみたときのガイダンス部分との棲み分けを考えないといけない。（事務局）
- ・ 車椅子、視覚障害や聴覚障害の方もいる。デジタル技術の導入で、様々な方が活用できるように考えてほしい。（委員）

4.令和6年度中城御殿エリア検討部会の報告

- 令和6年度第1回中城御殿エリア検討部会（2025年1月10日開催）における主な意見は下記のとおりである。

<正門および石牆の高さ、正門周辺の外構設計について>

⇒「資料5：外構整備について」にて、正門周辺について確認

- ・ 正門部分にも遺構が埋まっており、この遺構を基準に改めて門の高さを確認する必要がある。また、正門部分に埋まっている遺構を保護して嵩上げすることで、敷地内部との段差の違和感を解消できるのではないか。（委員）
→石牆高さの位置をもう一度確認するようというところで、現場も見ながら検討する。（事務局）
- ・ 表御殿東側エリアを含めた全体が完成したときを見据えて、アプローチや全体動線を検討する必要がある。（委員）
- ・ 1/12勾配では、人によっては自力での移動が厳しく、さらにスロープが長いため、適宜踊り場を設ける必要がある。（委員）
→スロープの登り始めの位置をずらして踊り場をスロープ全体の中に設けられるか検討する。（事務局）

<上之御殿へのスロープについて>

⇒「資料5：外構整備について」にて、上之御殿へのスロープについて確認

- ・ スロープの中間に踊り場を設けるなど、車椅子の方に負担がない形を検討してほしい。（委員）
- ・ 御内原エリアから上之御殿エリアに上がる部分については、残存状態がよい遺構があり文化財としての本質的な価値が高い。そのため、史跡指定等の観点から、現在の案では整備は難しいと考える。別の場所での検討も必要になるのではないか。（協力委員）

<その他>

- ・ 収蔵庫、展示室のモニタリングを行い、データを取る必要があるため人員を増やす必要がある。さらに、展示替えを頻繁にするためには、今いる職員だけではかなり難しいと思う。その他にも今後レファレンスがすごく必要になってくる。そのための情報整備が職員に求められてくるのではないかとと思う。（委員）

5.令和6年度龍潭周辺検討部会の報告

部会	世持橋高欄設計について	龍潭西岸バリアフリー園路について	松崎馬場植栽について
第1回 R6.11	●高欄の整備位置の検討 - 片側設置（龍潭側）で、既存柵の位置がよい。 - 高欄の景観を妨げない形状の転落防止施設を確保すべき。 ●高欄の素材・形態の検討 - 世持橋は優れた彫刻が特徴であり、ニービ素材で往時のものを再現すべき。	●園路設置について - バリアフリー園路の設置に賛成。 - 龍潭通りから園路やウッドデッキが目立たないように配慮すること。	●伐採・植栽の計画について - 現地を確認 - 新設トイレが目立たないように配慮すること。 - 昔の風景を再現するという目的が伝わるようにすること。
第2回 R6.12.23	●高欄の高さの検討（3案） 製作当時の推定高さ、圧迫感や視認性、背後の転落防止柵とのバランスなどから比較評価。折衷案とする。	●園路配置案の検討（4案） - 県文化財課としてはどの案も地形の改変や景観の改変が大きく許可できない。 - デッキと水辺との間に目隠しの樹木が配置できる位置がよい。 - 将来の名勝指定の可能性に配慮する。	●1期伐採後の状況確認と植栽計画の確認 - トイレを隠す植栽を追加する。 - 古写真にある植栽の追加配置を検討する。 - 龍淵橋を見通す地点も視点場に追加する。
第3回 R7.2.12	●高欄の設計案の検討 - 高欄高さ、地覆の厚み、転落防止柵配置など設計案を確認した。 - 道路勾配との調整を検討した。 ●下絵進捗の確認 - 進捗状況を確認した。	●園路配置案の検討（追加3案） - より景観に影響の少ない案となるよう文化財課と調整する。 - 目隠し植栽は問題ないか確認する。 - バリアフリー動線がスムーズになるよう接続位置を考慮する。	●植栽時・成長時のパース確認 - トイレや背後の建物がめだたなくなるよう、修景植栽を工夫すること。 - 下草を植える際には在来種が望ましい。

(参考) 整備スケジュール

▽ 令和8年首里城正殿復元工事完成予定

